

三重県臨床検査精度管理協議会

伊勢志摩地区凝固検査標準化懇話会 平成 21 年度活動報告

平成 22 年 3 月 25 日

平成 21年6月 2 日 第 1 回伊勢志摩地区凝固検査標準化懇話会(6 施設 7名参加)

1. H20年度第 3 回サーベイ結果について (プレチクロット N、P、凍結プール血漿 5 種)

- 1) PT INR はプレチクロット N では CV4.3 と収束したが、プレチクロット P、プール血漿 1、2 では CV8 前後とばらついたので、各施設検量線等の確認をする。
- 2) APTT はプレチクロット N においてエラグ酸を用いた試薬で延長した。
プール血漿 3 は APTT 延長検体であったが、試薬により延長の度合いがばらついた。
- 3) Fib の低値域を示すプレチクロット P は平均値 105mg/dl、CV5 未満で良好な結果であったが、正常～高値域のプール血漿に於いては CV7～10 とばらついた。

2. 多発性骨髄腫に関する勉強会(約 1 時間)

平成 21 年 6 月 17 日 第 1 回サーベイ試料配布

コアグトロール I、II、凍結プール血漿 2 種

平成 21 年 8 月 31 日 第 2 回サーベイ試料配布

(三重県臨床検査精度管理調査 血液試料②③)

平成 21 年 11 月 26 日 第 2 回伊勢志摩地区凝固検査標準化懇話会(5 施設 6 名参加)

1. H21 年度第 1 回、第 2 回サーベイ結果について

- 1) PT INR は、トロンボレル S ではコアグトロール II で低値に収束したが、プール血漿では平均値に収束し良好であったので、来年度はサイトロールでも行う。
- 2) APTT は各施設の試薬の特徴を確認する。
- 3) Fib は高目に外れる施設と低目に外れる施設がありばらついた。
- 4) 三臨技の集計に比較すると伊勢志摩地区集計はコアグトロール II の CV が PT、Fib で高くなったがその他の項目は収束していた。

2. 鉄代謝異常による貧血に関する勉強会(約 1 時間)

平成 21 年 12 月 9 日 第 3 回試料配布

凍結プール血漿 2 種

平成 21 年 2 月 24 日 第 3 回伊勢志摩地区凝固検査標準化懇話会(7 施設 10 名参加)

1. 第 3 回サーベイ結果について

- 1) PT INR は半自動測定機使用施設でバラついた。また、検量線を INR で調節している施設で % が正常域で低値にはずれた。
- 2) TT% はワーファリン治療域で、CV13.1 でバラついた。
- 3) Fib はメーカー検量線を使用している施設でなかなか改善がみられない。
- 4) いずれの項目も値は収束傾向にあるが、参加施設は半自動測定機を含む多種測定機のため値の収束具合がサーベイごとでかなり変化する。自施設で検量線を作成する場合は、ずれが生じる場合があるので、できる施設はコントロールのデータ管理を全国データと比較しチェックすると良いが、そのようなシステムを持たない施設においては、このような会でのチェックが大切で有ると感じた。

2. H22 年度の活動について

- 1) サーベイの方法について
市販のコントロール血漿を別のメーカーでも試してみる。(H22 年度はサイトロールとする)
プール血漿は濃度を変えて 3 濃度でもする。
- 2) 各施設の基準値を調べる。
- 3) 各施設の希少症例や判断に苦慮した症例などを持ち寄り検討する。

平成 22 年 3 月 17 日 第4回試料配布
凍結プール血漿2種

まとめ

参加施設は7施設であるが、半自動測定機を含む多種測定機のため値の収束具合がサーベイごとでかなり変化する。自施設で検量線を作成する場合は、ずれが生じる場合があるので、できる施設はコントロールのデータ管理を全国データと比較しチェックすると良いが、そのようなシステムを持たない施設においては、このような会でのチェックの有用性を感じる。

この会が発足してからまる3年が経過した。当初近隣の施設でありながら交流があまりなくごちない会であったが、回を重ねるにつれお互いの問題点や対策について気軽に話せる関係になり良い会に成長したと感じる、今後も更なる工夫をして、皆で研鑽してゆきたい。

以上

平成 20 年度伊勢志摩地区凝固検査標準化懇話会 幹事
山田赤十字病院 臨床検査室 道根 るり子